

横財管 第30号
令和4年（2022年）5月30日

横須賀市議会
新型コロナウイルス感染症対策検討協議会
委員長 西郷宗範様

横須賀市長 上地克明

新型コロナウイルスへの対策等に関する要望・確認事項について

令和4年（2022年）5月16日付「新型コロナウイルスへの対策等に関する要望・確認事項について」に係る要望等事項について、別紙のとおり回答いたします。

No	要望等事項	対象部局等	回答	前回 No	資料	番号
1	中和抗体療法の本市利用状況はどのようなものか。新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）に対する有効性はいかがか確認したい。	健康部	本市では横須賀市医師会と連携し、外来で中和抗体療法を実施しています。横須賀市医師会からは、令和3年10月から令和4年4月末までに198件が実施されているとの報告を受けています。 現在、中和抗体薬は2種類が承認されていますが、デルタ株以前の変異株に対してはともに有効とされています。オミクロン株に関しては、厚生労働省の中和抗体薬に関する質疑応答集で「ロナプリーブ」は有効性が減弱するため、推奨されないとされています。もう一つの「ゼビュディ」については、オミクロン株のB A. 1系統に対しては有効性が認められていますが、B A. 2系統に対しては、有効性が減弱するおそれがあることから、経口薬等の他の治療薬が禁忌に抵触するなどの理由で使用できない場合に使用を検討することとされています。	新	②	222
2	新型コロナウイルス感染症の流行はそのはやり始めの頃からオミクロン株に置き換わったことで、デルタ株流行期と比べると感染者数は格段に増えている。市は陽性者数、入院者数などの数字を出しているが、現状の感染者数の水準において、病院の負担感はいかがか。どのような状況（感染者数、重症者数等）が現れたら病院の状況はひっ迫するのか確認したい。	健康部	入院患者数の減少傾向が続き、神奈川県 の病床確保フェーズは3月中旬の「災害特別フェーズ」から「フェーズ2」まで引き下げられ、病院の負担感は軽くなっています。 病院のひっ迫状況を感染者数だけで判断するのは困難ですが、概ねの目安として、入院の必要な患者が1日に10人以上発生すると病院の状況がひっ迫してくると考えます。	新	②	223
3	5月8日時点での本市の感染症患者の発生状況では自宅療養者が565名となっている。改めて入院の有無、入院と自宅療養の見極めの考え方を確認したい。 また、自宅療養者への医療ケア体制、食料支援体制はどのようになっているのか確認したい。	健康部	入院は、感染症患者の重症化リスクによって、優先度を判断しています。 自宅療養者への医療ケア体制は、電話やLINE療養サポートによる毎日の健康観察を行い、体調が悪化した場合は訪問看護、オンライン診療の紹介や入院調整を行い、無事に療養が終了するまでサポートをしています。緊急時の連絡先として24時間対応のコロナ119番もあります。 食糧支援体制は、神奈川県が重点観察対象者や経済的な理由により食料品の確保にお困りの方に配食サービスを行うとともに、その他の方へ民間配食サービスの紹介を行っています。本市でも緊急に食糧支援が必要な方に対して食糧の配布を行っています。	新	②	224